

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

阿賀中学校区 校番 7 学校名 呉市立阿賀中学校

a 学校教育目標	自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 夢を実現するために、主体的に学ぶ意欲を持ち、地域社会に貢献する人材の育成 〈ビジョン〉(将来の学校像) 「活気のある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」
----------	--------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	昨年度から呉市「小中で創る『未来の学び』実践事業」の指定を受け阿賀中学校区で研究を進めており、授業や生活における居場所づくりを通して、主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒を育成する取組を行っている。昨年度は、研究テーマの副題である「授業や生活における居場所づくり」について、本中学校区での捉えを共通認識することができた。そこで、今年度は、これまで取り組んできたことを基盤に据え、本中学校区の授業スタイルを確立し、それに伴う手立てや工夫を一層充実させ、児童生徒の学力向上に努めるとともに、児童生徒の正確な実態把握(個の変容の把握)に基づく取組を進め、児童生徒の誰もが安心して、目的意識をもって過ごせるようにしていきたい。その際、不登校等児童生徒支援指定校の組織的な取組の成果を生かしていきたい。
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 自らへの自信【学びに向かう力・人間性】 思いやり・感謝・貢献【学びに向かう力・人間性】
-------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上	○授業における居場所づくり、授業づくり。 ① ○基礎基本の学力の定着と学習習慣の確立を図る。	○自らの主体的な選択によって、自ら考え、判断し、表現できるような自己決定の場のある授業づくりに取り組む。	○「授業の中で分かった、できたと感じながら授業を受けています」と肯定的に答えた生徒の割合	70%						
			○学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。	○全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率「0」をめざす。	90%						
			○全学級で毎日ノートやタブレット等を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。	○家庭学習においてノートやタブレットを活用し、主体的に自分の課題と向き合い粘り強く取り組んでいる生徒の割合	85%						
**	自尊感情の高揚	① ○規範意識を高める。 ○感動体験の共有による自校を誇れる心の育成 ② ○思いやりの心を育てる。	○グッドカード及び阿賀中スタンダード認定システムを推進することで、生徒の良さを伸ばすとともに礼節や貢献の姿勢などの価値観を高める。	○「阿賀中スタンダードをまもれた」の肯定的評価の割合	90%						
			○体育大会・文化発表会の充実やソーラン文化の継承といった自主的な学習活動を活かした礼節と道徳教育を推進する。	○生徒アンケート「阿賀中学校の生徒としての誇りと自覚を持って生活している」の肯定的評価の割合	90%						
			○地域やアカデミア協議会との協働のなかで、地域貢献・ボランティア活動等を充実させる。	○「自分が好きだ」「自分にはよいところがある」の肯定的評価の割合	70%						
*	基本的な生活習慣の確立と体力の向上	○自分の生活を見つめ、自ら生活リズムを整える力を高める。 ○体力向上の意識を持たせ、継続した取組により運動能力を高める。	○毎日ノートの記録から、自分の生活を見つめ直させる。(早寝・早起き・朝ごはんの3点チェック) ○常時、時間を意識した行動が取れるよう指導する。	○「普段の生活や行事の中で、時間を守って行動できる生徒」の肯定的評価の割合	95%						
			○保健体育科授業において、体力・運動能力を高める ○保健体育委員会で体力づくり強化週間等を実施するとともに校内掲示等で意識の高揚を図る ○強化種目で記録の変容を見取る	○強化種目(50m走, 20mシャトルラン, 立ち幅跳び)で県平均を上回る生徒の割合	70%						

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	会議時間、研修時間等の短縮	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%						
		長時間勤務の削減	週1回の定時退校の徹底 部活動休養日の定着	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	100%						

【k:評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60